

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5407 英語詩精読			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	月曜3限				
教室	C104教室				
代表教員	遠藤 朋之				
担当教員	遠藤 朋之				
テーマと到達目標	25年度のこの授業で扱った宮沢賢治の詩の Gary Snyder による英訳で、25年度に読めなかった部分を引き続き読む。日本語から英語へと詩が移植される時に、どこが同じでどこが違うのか、そしてその違いがどのように英語の詩において詩的効果を持つのか、それを考える。				
概要	上記にあるように、翻訳、とくに詩の翻訳にはつねに「誤訳」の問題が付きまとう。果たしてそれは「誤訳」なのか？ もちろん、語学的明見地からは明らかに「誤訳」の場合もあるだろう。しかし、「意図的な誤訳」、つまり、日本語をそのまま訳したからといって英語の文脈では機能しない、だから意図的に誤訳した、という場合もある。この授業では、宮沢賢治の詩をまずは精読し、そしてそれがスナイダーによってどのように英語に移植されたか、一語一句を比較検討する。そうすることによって、「翻訳」とは一種の、枠のある創作行為であることを明らかにする。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	introduction。授業の概要、そして事務的な話。				対面授業
第2回	"Orders" 「命令」の精読。担当はエンドウ。				対面授業
第3回	"Distant Labor" 「はるかな作業」の精読。学生が担当。				対面授業
第4回	"The Politicians" 「政治家」。				対面授業
第5回	"Daydreaming on the Trail" 「旅程幻想」。				対面授業
第6回	"The Great Power Line Pole" 「グランド電柱」。				対面授業
第7回	"Pine Needles" 「松の針」。				対面授業
第8回	"Thief" 「ぬすびと」。				対面授業
第9回	"Some Views Concerning the . . ." 「国立公園候補地に関する意見」の前半。				対面授業
第10回	"Some Views Concerning the . . ." 「国立公園候補地に関する意見」の後半。				対面授業
第11回	"Moon, Son of Heaven" 「月天子」。				対面授業
第12回	スナイダーと谷川俊太郎による Poetry Reading のドキュメンタリー番組の鑑賞。			"Spring and the Ashura" 「春と修羅」の前半。	対面授業
第13回	"Spring and the Ashura" 「春と修羅」の後半。				対面授業
第14回	スナイダーの詩、"LMFBR"。				対面授業
第15回	授業のまとめ。				対面授業
成績評価の基準	授業への参加度、そして学期末論文 (レポート)。				
履修にあたっての留意事項	初回の授業はエンドウが担当するが、それ以降は学生のプレゼンテーションで授業は進む。初回で、詩のプレゼンテーションとはどのようなものか学んでもらい、あとは学生主導で授業は進む。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限 (抽選) 授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	宮沢賢治著、『宮沢賢治詩集』（岩波文庫）、それと Gary Snyder の『The Back Country』。両方をかならず準備して授業に臨むこと。	教科書(ISBN)	
参考文献	山のようにあるので、各自、図書館に行って確認すること。とはいえ、山里勝己著、『場所を生きる』（山と溪谷社）は必読。	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
--------------------	---